

## ■ バニーエルザはショタの催眠肉便器 3日目

——依頼三日目。

昨夜 風呂場で凄まじい連続絶頂をキメられて失神したエルザ。  
いつの間にかその身体は装飾過多にして淫靡な下着が着せられていた。

(……何だこれは……っ！)

またいいようにしてやられたことに対しても含め、怒りのままに換装を発動。  
バニースーツになるため、一瞬だけ裸となり——

—— パンッ！

◆

【おー決まった決まった、『時間停止』】

少年が動きを止めたエルザに近付く。

今しがた使用した催眠は『時間停止』。

厳密に言えば時間の感覚……肉体と精神を硬直させただけだが、エルザにとっては時間を止められたのと同じだろう。

今日はこの暗示を使い、無抵抗なエルザを甚振って遊ぶつもりだ。

手を叩いて念入りに感度を上げると特製の極太パイプを取り出し、全裸になったエルザの秘部に挿入。スイッチを入れて刺激を与える。

……が、無論エルザは反応しない。時間感覚を停止させている間は一切反応しないのだ。

ただし、停止させている間の刺激は肉体が覚えており、停止解除時すると停止中の刺激を一気に知覚する。

エルザにとっては、一瞬にして理解不能かつ膨大な責めを受けてたことになる、というわけだ。

少年は格好よく換装しているこの状態からの落差を想像し、下卑た笑みを浮かべながらパイプを抜くと、  
一分後に時間停止が解けるように暗示をかけて部屋へと戻る……

◆

換装魔法を発動させたエルザ。すぐにバニースーツに戻る——はずが、一瞬全裸になったその瞬間。

**ヴヴヴヴヴヴヴヴ**

「んおおおおおおおっ♥♥」

唐突に、膣内に刺激を感じて悶絶する。

換装魔法で無防備となるのはごく僅かな時間しかない。

誰も手出しできないほどの隙であるはずだが、それにも関わらずじつくりと数分かけて責められたかのような刺激だ。

このような事態は初めてであり、快感のあまり換装魔法が途中で中断、全裸のまま倒れ伏す。

「おっ♥ お♥ おっふううっ♥」

正体不明の性責め。いや、おそらくは少年が何かしたのだろうが、この場に少年はいない。

まるで見当のつかない責めに、エルザはズクリと戦慄させられる。

(何だこれはっ？！ い、一体、何をしたというのだ♥ どのような術式をおお……♥)

——回復したエルザ。少年の指示によりキッチンにて朝食を作っている。

(早く術式の跡を見つけなければ……これ以上、あんな下衆の好きにさせるわけにはいかんっ！)

怒りを募らせながら、肉便器契約により命令は聴かなければならないので手際よく食事を作る。

「……出来たぞ」

【あ〜ん、てヤツしてよ♪】

「ガキか！」

【え〜〜それくらいいいでしょ、ほら早く早く♪】

食事を作らせたかと思えば、なんとも子供のような要求。

エルザは渋々、一口分をすくって少年の口に近付ける。

「……ほら、口を開けろ。あ、あ——」

【もっと可愛くやってよ〜】

無愛想なのが気に食わないようだ。仕方なく、苛立ちを抑えて笑顔を作る。

「ほら♥ あ〜〜」

—— パンッ！



エルザが「あ〜ん♥」　　と言いつ切る前に手を叩き時間感覚を停止させた。  
命令しなければ決して見せない愛想のいい笑顔。それがピタリと動かなくなれば、雄としてどうしても嗜虐心が湧いてくる。  
テーブルに上り、まずは間抜けに開いた口でフェラチオ。巨根を突っ込み、オナホール感覚で激しく肉棒を扱う。  
やはり反応はないが、むしろ全く反応がないことが停止解除後を想像させて雄欲を昂ぶらせる。  
また、こちらを見て媚びたまま固まっている表情を見ながら口内を犯すのも非日常的な支配感を満たしてくれ、中々そるものがある。  
ついでに手を伸ばして胸に愛撫。適当に揉んだ後、数回ほど乳首を捏ね上げる。  
感触に満足すると、そのまま遠慮なく喉奥へと放精。  
吐き出すわけでも飲むわけでもないの口と喉に白濁が溜まり、完全にオナホール扱いだ。  
口内射精で一度スッキリすると椅子に座り、時間停止前と同じ状態に戻って時間停止を解除する。



「あ〜」

ずぼっ♥　ぐぼっ♥　ずぼずぼずぼずぼっ♥　コリコリコリコリッ♥　ドブブブッ♥♥

「んぽおおおおおお♥♥」

(また♥　いきなり責めがっ♥　快感がっ♥　口の中に精液が出され♥　既に溜まってえええっ♥)

命令通り「あ〜ん♥」をしようとしていたエルザ。  
だがその途中、またも一瞬にして濃密な性責めがされたような刺激に襲われる。  
少年は一切動いていないはずなのに口の中が巨根の感覚で満たされ、かと思えば胸が揉まれ、乳首を抓り上げられる。  
そして喉奥に出される——いや、出されていた、と言うべき大量の精液。  
エルザは受け止めきれない責めの快楽に、軽く蟹股になりながら絶頂。  
発情したせいか精液さえ美味しく感じられ、ほとんど吐き出しながらも一部を飲み込んでしまう。

「ふぐっ♥♥　んぶっ♥♥　んっぐっ♥♥　くほおお……っ♥♥」

【うわっ！　エルザさん、どうしたのっ？！】

「っ……しらばっくれるな！　お、お前が……けほっ♥　また何かしたのだろうっ！」

【なんのことかなあ〜？　そう思うなら、がんばって証拠を見つけてよね♪】

「く……っ！」

——朝食後の掃除。今回も術式の証拠を探しながらの床磨きだ。

(何なのだ、あれは……いくらなんでもおかしすぎる！　しかし理屈が分からん。

まるで時間を停止させたような……しかし、流石にそんな大魔法は使えんはず……だとすれば一体……)

時間を操作する魔法も伝説や噂には存在するが、いくらなんでも少年にそれが使えるとは思えない。  
となればエルザ自身に何か細工を仕掛けたのだろうが、それがどんなものなのか、まるで理解できない。  
床を磨きながら、エルザはいつまた同様の責めが施されるのか分からない恐怖で下腹部を震えさせる。  
目に見える通常の責め、強姦も恐ろしいものだが、訳も分からずいつの間にか責められ絶頂させられるのもまた恐怖である。

(今こうしている間にも、また奴があゝの責めをしてくるかもしれ)

——　パンッ！



四つん這いになって床を磨く姿勢で固まったエルザ。  
自然と突き出す形になる爆尻を、近付いた少年が軽く撫でる。  
その大きさ、弾力、ハリ、柔らかさを堪能した後、軽く叩く。  
次は性器。尻と同じく突き出された陰唇をなぞり、パニースーツ越しに牝孔へ指を少し突っ込み、中を軽く弄繰り回す。  
陰核は既に硬くなっており、これも数回愛でた後、指で思い切り弾く。  
胸……押し潰されるように形を変えた爆乳も忘れてはいけない。  
掬うように持ち上げると、まだ朝の責めの余韻が残っているのか、乳首も勃起していた。  
数回揉み捏ね、最後にまた尻肉をひっぱたいた後、時間感覚の停止を解除する。



(また奴があゝの責めをしてくるかもしれ)

ぱあんっ♥　くちゅっ♥　こりこりこりこりっ♥　びいんっ♥　びんっ♥　ぱちいんっ♥

「んんんんうううううううう♥♥」

ちょうど警戒したタイミングに、また一瞬による快感責めがなされた。

尻、陰唇、陰核、胸、乳首。複数個所が同時に何度も弄ばれ、エルザは堪らず尻を掲げて煩悶する。

(またっ♥ また来たっ♥ だが♥ この程度おおおおっ♥)

敏感になっていること、一度に一気に襲いかかるため凄まじい快感となるが、今回の責め自体は軽いものだ。

警戒していたこともあり、エルザは興奮するもののどうにか絶頂を堪えてプライドを死守する。

【おっと、どうしたのエルザさへん？ 床磨きするとイッチャうのかな？】

「ふっ♥ ふっく……♥ ……フンッ、私を舐めるな……！ この程度の責め、もう私には通じんっ！」

【うわ、怖い怖い。……でもかなり疲れてるみたいだよ、ベッドで休まない？】

おどけてみせる少年。下卑た笑みを浮かべると自分の部屋を指差し、そこで寝ないかと誘ってくる。

【エルザさんの大好きなチンポでマッサージしてあげるよ？】

「断る。誰がお前のベッドで……お前のモノなどで」

——パンッ！

◆

少年に対し、強く睨み付けて気概を示す表情のまま固まったエルザ。彼女を台車に乗せて強引に移動させ、自室のベッドに乗せる。

仰向けにして脚を開かせ、スーツの股間部をズラし、タイツを破って性器を露出させる。

まるでエルザが誘っているような姿勢にした後、少年はそのまま正常位挿入。自室のベッドの上でエルザを犯す。

硬直したままでも性関係の機能だけは働き、表情を変えぬままこちらの巨根に絡み付き、扱き上げてくる。

こんな状態でも媚婦顔負けの名器っぷりを忘れぬ彼女の身体に対し、皮肉って感謝しながら突き上げる。

少し続けると子宮が反応、少年の巨根に吸い付くかのように降りて来た。遠慮なく肉突きを叩き込み、性豪を欲しがらる子宮を滅多打ちにする。

もしエルザの感覚が起きていれば、もう既に十は超える絶頂に至っているだろう。

いや、先程はあえて絶頂しない程度に馴ってやったので感度は上がったままのはず。軽く見積もって、倍の二十回ほどになるだろうか。

そこに更なる責め……牝が最も肉悦を感じる肉責め——膣内射精を与える。

自分でも呆れるほどの量を誇る白濁を注ぎ込み、エルザの中に蓄えると、ゆっくりと引き抜く。

体勢を変え、陵辱し……これだけやっても、エルザの感覚……表情はそのままだ。

この表情が停止解除させた瞬間どうなるのか。それを愉しみにして、また手を叩いて時間感覚を元に戻す。

◆

「誰がお前のベッドで……お前のモノなどで」

ずぽおおっ♥ ばんばんばんばんずぽずぽずぽずぽぐりゅっごづらんっ♥♥

ドブドブドブッ♥♥ ゴブッ♥♥ ゴビュルルルルルルルッ♥♥

体験版はここまでです。続きは製品版で！